

日本の新聞に出ないオバマ大統領の動き

日本では報道されないか報道されても小さく扱われるニュースが、アメリカの新聞では、いろいろと議論されているということがあるものです。そのひとつに、オバマ大統領が5月17日にノートルダム大学 (University of Notre Dame, Notre Dame, Indiana) の卒業式に出席することがあります。もちろん卒業を祝う演説 (commencement address) をする予定です。

ノートルダム大学は、アメリカのカトリック系の大学では最有力の大学で、保守派の牙城とされています。アメリカ合衆国ではカトリック教徒の割合は多いとは言えませんが、中南米諸国は全てカトリック教国であり、ヨーロッパとの繋がりという点でも、合衆国内のカトリックは無視できない勢力です。

今回のオバマ氏のノートルダム大学訪問は、ニューヨーク・タイムズやワシントン・ポストで、繰り返し議論されています。その理由は、ノートルダム大学がオバマ氏を招待したことに対して、カトリック社会と当のノートルダム大学のなかで深刻な意見の対立があるからです。

オバマ氏をノートルダム大学に呼ぶことに反対している人たちは、オバマ氏がこれまでの大統領のなかでは最も明確に妊娠中絶に賛成している (the most pro-abortion president we have ever had) ことを問題にしています。カトリックの最高権威である

ローマ教皇庁は、妊娠中絶を神の意志に反する行為として認めていません。

ノートルダム大学がある地区の司教 (bishop) は、卒業式をボイコットすることを表明しています。しかし、自分自身神父であるジェンキンス学長 (Reverend John I. Jenkins) は、ノートルダム大学は決してオバマ氏への招待を撤回することはなく、オバマ氏は名誉学位を受けることになっており、卒業する学生たちを前にして講演することに熱意を示していると述べています。

学生たちの反応は分かれているようですが、オバマ招待賛成派の方が反対派をかなり上回っているとされています。それは、この件を必ずしも宗教的な見方で捉えようとせず、単純に「大統領が来てくれるなんて、素晴らしいじゃないか」という感覚を持っている者が多いということです。また、学生や教員には、反対派が強力な運動を繰り広げることによって、大学内で自由な意見表明ができなくなることを心配する人たちも多いようです。

しかし、オバマ氏の来学をスキャンダルだとする硬派の学生もいて、キャンパス内にある聖堂 (Basilica of the Sacred Heart) の前の階段に立って、大学の罪 (sin) と冒瀆行為 (sacrilege) を糾弾する者もいます。また、最近この大学から入学許可を貰って大喜びをした女子高校生は、本気で入学辞退を考え始めています。多くの卒業生も反対を表明しています。

このように、卒業式の来賓についての大学関係者の意見が分かれることは、これまでもあったそうです。過去に、ノートルダム大学は、大統領在任中のアイゼンハウアー、カーター、レーガン、ブッシュ(父)、ブッシュ(息子)を招待しています。このうち、ブッシュ氏(息子)が来学したときには、ブッシュ氏が死刑の存続に賛成していることに抗議する運動がありました。

今から約1箇月の間に、この問題がどういう展開を見せるかは興味のあるところですが、私は、おそらく余り無秩序なことにはならないで、オバマ氏は卒業式の演説をするだろうと予想しています。激しく意見を闘わしても、最後には何らかの決着が付くというのが、アメリカという国での物事のあり方だからです。

オバマ氏が、ノートルダム大学の卒業式に出席するひとつの理由は、この大学が、オバマ氏の本拠地であるシカゴ市から比較的近くにあることではないかと、私は思っています。私は、1966年6月に、この大学の中に入ったことがあります。当時、私はミシガン大学に滞在中でしたが、シカゴで開催された学会に出席した帰り道に、この大学に立ち寄ってみたのです。自分で運転して行きました。いかにもカトリックの大学だという印象をもった記憶があります。

オバマ氏は、今年、ノートルダム大学以外に、アリゾナ州立大学(Arizona State University, Tempe, Arizona)と海軍兵学校(US Naval Academy, Annapolis, Maryland)の卒業式に出席する予定だそうですが、これらがいずれも大統領選挙で争ったマケイン氏に関係の深い学校であることは面白いと思っています。マケイン氏の本拠地はアリゾナ州で、彼は海軍兵学校の出身者です。(おわり)